

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 殿  
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予報第7号について

このことについて、病虫害発生予報第7号を発表したので送付します。

予報第7号

向こう1か月間の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病虫害名	発生現況	発生予報	
		平年比	平年比	前年比
カンキツ	ミカンハダニ	少	やや少	やや少
果樹共通	カメムシ類	並	並	並
アスパラガス	アザミウマ類	やや多	やや多	やや多
イチゴ	炭疽病 ハダニ類	やや多 やや多	やや多 やや多	やや多 やや少
野菜共通	ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ	やや多 多	やや多 やや多	やや多 多

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は平年並か高いでしょう。降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多いでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目と3～4週目はいずれも平年並か高いでしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	40	40	20
日照時間	30	30	40

(福岡管区気象台 18年9月29日発表抜粋)

## 作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（ + ）は発生を助長する要因、（ - ）は発生を抑制する要因、（ ± ）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

### 【果樹】

#### 1 カンキツのミカンハダニ

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

##### (2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査結果（ - ）

寄生葉率 1.3%（平年 8.1%、前年 9.5%）

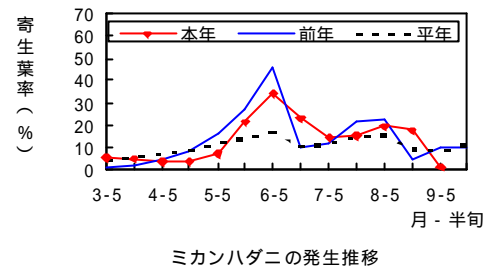
発生ほ場率 40.0%（平年 47.5%、前年 31.3%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ない。（ + ）

##### (3) 防除上の注意

ア 果実に寄生が見られる場合は、防除を実施する。

イ 防除に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散（ドリフト）防止の徹底を図る。特に薬剤の選定に当たっては、使用時期（収穫前日数）に注意する。



#### 2 果樹共通のカメムシ類

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

##### (2) 予報の根拠

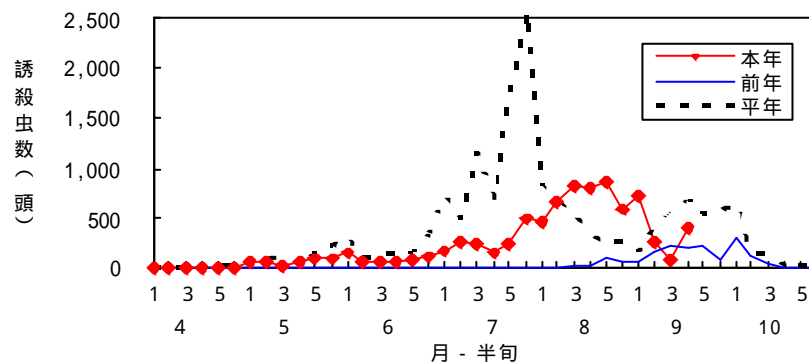
ア ヒノキ球果のピーティング調査の結果から、ヒノキ樹上の幼虫は少なく今後の増加はないと考えられるが、向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高いと予想されているため羽化した成虫の果樹園への飛来は今後も続くと予想される。（ + ）

イ 9月1半旬から9月4半旬までの予察灯の誘殺虫数は減少傾向にある。（ - ）

（県内6か所の平均）

チャバネアオカメムシ 1,457頭（平年 1,833頭、前年 651頭）

ツヤアオカメムシ 169頭（平年 406頭、前年 28頭）



##### (3) 防除上の注意

ア 気温が高く経過すると遅い時期までカメムシ類の活動が見られ、果樹園へ飛来することが予想されるので、発生状況に応じて防除を行う。

イ 防除を行う場合は、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散（ドリフト）防止の徹底を図る。特に薬剤の選定に当たっては、使用時期（収穫前日数）・使用回数に注意する。

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生現況	発生予報		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
カキ 炭疽病	多	やや多	多	罹病枝及び罹病果を除去する。

【野菜】

1 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

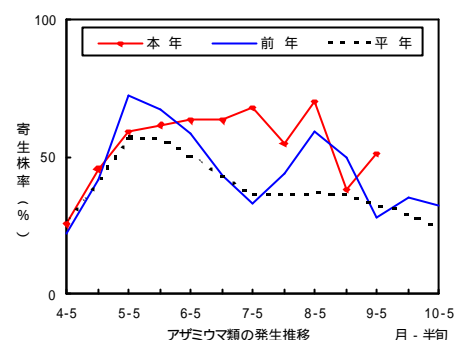
ア 9月5 半月調査結果( + )

寄生株率 51.0% ( 平年 32.5%、前年 27.5% )

で、一部のほ場で多発している。

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く

降水量は平年並か少ない。( + )



(3) 防除上の注意

ア 擬葉を手で払い、落下した虫数で発生状況を確認する。白い紙などで受けると見やすい。成茎で多発生している場合は、若茎にも寄生がみられるようになるので注意する。

イ 多発生後は防除が困難となるので、発生が見られたら早めに防除を行う。

ウ 雑草は本虫の発生源になるため、ほ場内や周辺の除草を徹底する。

(4) 次年度対策

紫外線カットフィルムや防虫ネットの導入を行う。

2 イチゴの炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

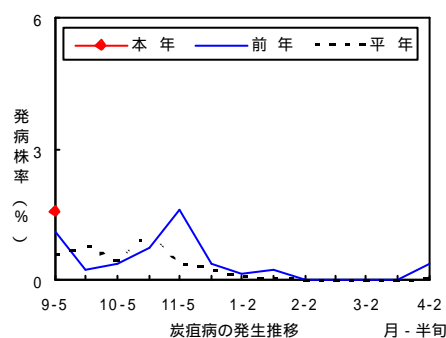
(2) 予報の根拠

ア 9月5 半月調査結果( + )

発病株率 1.6% ( 平年 0.6%、前年 1.1% )

イ 潜在感染株調査結果( 7月2 半月採集 ) ( + )

感染株率 16.9%



(3) 防除上の注意

ア 発病株は、残渣を残さずに周囲の土ごと掘り取り、ほ場外で処分する。

イ ビニル被覆前までは新しい感染の恐れがあるので防除を行う。

ウ ほ場の排水を図り、多湿にならないようにする。

(4) その他

次年度の親株が不足する場合は、ビニル被覆後、健全株から発生した秋ランナーを採苗し、親株とする。

### 3 イチゴのハダニ類

#### (1) 予報の内容

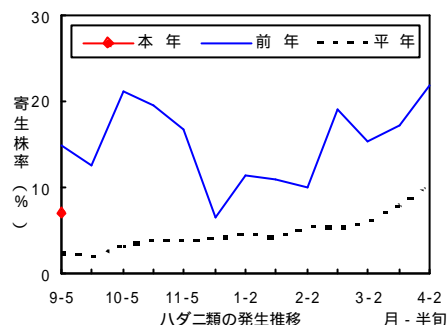
発生量： 平年よりやや多く、前年よりやや少ない

#### (2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査結果( + )

寄生株率 7.1% ( 平年 2.4%、前年 15.0% )

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く  
降水量は平年並か少ない。( + )



#### (3) 防除上の注意

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、発生が見られたら早めに防除を行う。

イ 防除する場合は、摘葉後に行うと効果的である。

ウ ほ場内や周辺の除草を徹底する。

エ ハダニ類が寄生した摘葉や除草した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋に入れ密封して処分する。

オ チリカブリダニ等を利用する場合は、殺ダニ剤の散布等により、ハダニ類の密度を下げて行う。

### 4 ハスモンヨトウ (野菜共通)

#### (1) 予報の内容

発生量： 平年・前年よりやや多い

#### (2) 予報の根拠

ア 9月4半旬(9/16~20の5日間)のフェロモントラップの誘殺数( + )

筑紫野市 389頭 ( 平年比123% )

筑後市 717頭 ( 平年比403% )

行橋市 1,257頭 ( 平年比214% )

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ない。( + )

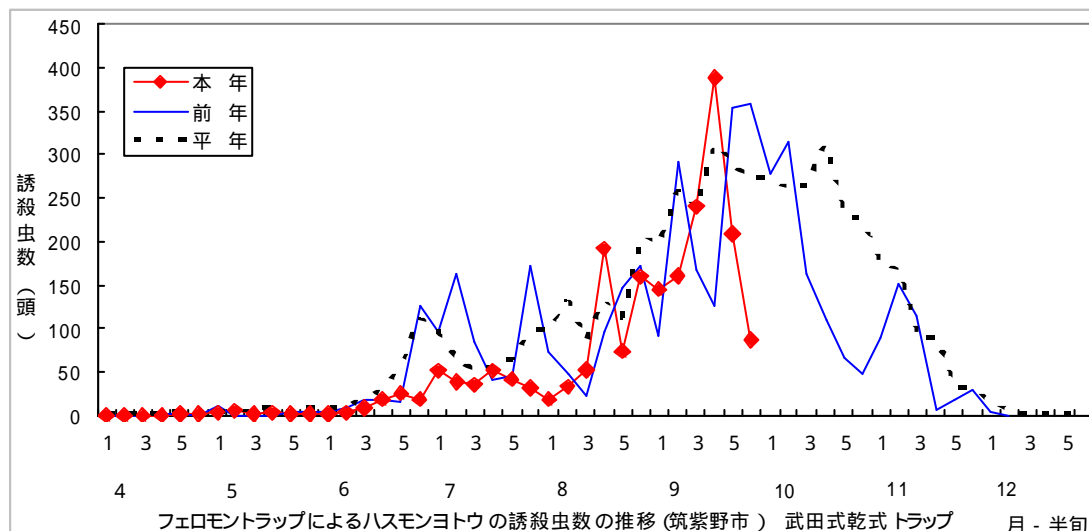
#### (3) 防除上の注意

ア 孵化直後から3齢幼虫期までに薬剤防除を徹底する。

イ 若齢幼虫は群生しており、かすり状の葉をみつけたら直ちに除去する。

ウ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため、4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照する。



5 ミナミキイロアザミウマ（野菜共通）

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

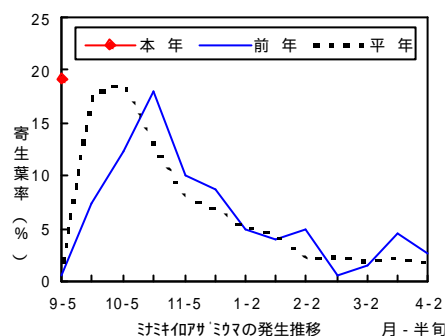
ア 9月5半旬調査結果（+）

ナス寄生葉率 19.2%

（平年 1.8%、前年 0.6%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く

降水量は平年並か少ない。（+）



(3) 防除上の注意

ア 台風対策でビニルを剥いだほ場等で発生が多いので注意する。

イ 多発生後は防除が困難となるので、発生が見られたら早めに防除を行う。

ウ キュウリでは、黄化えそ病の媒介虫となっているので注意する。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生現況	発生予報		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
ネギ ヨドクシヨドク	やや少	並	並	
アスパラガス 斑点病	並	並	やや多	早期発見に努め、発生初期から防除する。
ハダニ類	やや少	並	並	
アブラムシ類	並	並	並	
鱗翅目	並	並	並	
イチゴ うどんこ病	並	やや少	並	
アブラムシ類	やや少	並	やや少	
ナス うどんこ病	並	並	並	
キャベツ 黒腐病	並	並	並	
菌核病	並	並	並	
コナガ	やや少	並	並	
野菜共通 オオタバコガ	少	並	やや少	今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照する。
コナジラミ類	少	並	やや少	今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照する。

## 農薬の適正使用、飛散防止の徹底を！

全ての農薬の残留基準が作物毎に設定され基準値を超えた食品（農産物）の販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう、これまで以上に注意を払う必要があります。

### 1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数を使用基準を遵守する。

動力噴霧器、薬液タンクなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

### 2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 生産履歴の記帳

農薬使用の際は、作物、ほ場毎、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を記帳する。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpnn.ne.jp/fukuoka>  
電子メール [kfok0301@sp.jpnn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpnn.ne.jp)